



遊び心を生活の中に



理事 師岡 さと子

ふらりと出かけたお天気の良い日、珍しいものを見つけました。思わず手に取ったそれは、小さな小さな小枝の色鉛筆でした。小さくてもちゃんと描ける色鉛筆です。

制作過程を伺うと、桜や梅の小枝を3cmほどに切り、切り口に穴をあけ、使い古し（捨てられる運命）の色鉛筆の芯を差し込み、削って整えたら完成だそうです。作品は、5cm四方の板におしゃれな布を貼り、その上に小さな5色の色鉛筆が並んでいます。捨てられた小枝、使えなくなった色鉛筆が一気に可愛らしく素敵なお品に変身。作者は、女性と思いきや厳つい男性でした。その太い指でよくもこんなに繊細な作品を仕上げたものだと感心し、なぜこの作品を作ったのか訊ねてみました。

短くなった色鉛筆、なんとか最後まで使えるようにしたいと思い、「遊び心」が湧いてきて、次々と作品に挑戦するようになったそうです。話をしているその男性は、いつしか笑顔に包まれていました。小さくなった色鉛筆をどうにかして売れる商品にしなくてはならない、という切羽詰まった気持ちでなく、絵を描きながら短くなった色鉛筆を使って「遊んでみよう」という気持ちから生まれた作品です。見ていた私の心がホッと和みました。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策、そしてインフルエンザ流行の時期がせまる中、日々の生活に苦戦する毎日で、いつの間にか頑張り顔になっている私たちです。時には立ち止まって心温まる作品に触れてみませんか。

遊び心のある空間には、積極的に身を置くことを心がけましょう。自然と気持ちが穏やかになり、きっと「また頑張ろう」と前向きな力をあなたに与えてくれることでしょう。今、この時代を共に生きる私たち。助け合い、許し合いながら新しい時代に向け、力を蓄えておきたいですね。

